

照明灯

小学校の同級生 だったT君と仲良くなった。彼の住まいへ遊びに行った際に「うちの船に来ないか」と誘われた。父親が仕事に使っているという▼横浜市中区の弁天橋近くに停泊していたのは、港で運搬に活躍する「はしけ」と呼ばれる小型船だった。船尾の居住スペースにちゃぶ台があり、昼食をいただいた。わずかな揺れで船酔いし、T君に笑われた。昭和30年代末の思い出である▼神奈川大学の非文字資料研究センターが出した報告書を読み、記憶がよみがえった。表題は「横浜港における船上生活者の歴史の変容」。歴史研究のために関係者から話を聞き取るオーラルヒストリーの手法により、横浜の水上学校の様子が記録されている▼船を住居兼用とする家庭の子どもたちの教育を担う水上学校は1942年に開校した。水上の名が付いているものの校舎は中区内にあり、寮生活を送りながら学んだ。対象者の減少などから開校となったのは67年で、式典を神奈川新聞が伝えている▼横浜港が開かれて以来、仕事を求めて全国から人々が集まり、船上で日常生活を営む習慣が根付いた。T君は自宅から小学校に通っていたが、はしけに泊まることもあったろう。今も元気にしているだろうかと弁天橋を渡りながら思った。

【2019・4・25】